

平成26年度 第13号

緑丘トピックス

北海道伊達緑丘高等学校

平成27年3月24日(火)

☆☆平成26年度の教育活動が終了します☆☆

校長 吉田孝一

3月1日(日)、3年生156名が第30期卒業生として、母校を巣立っていきました。そして、3月24日(火)は平成26年度終業式として、年度の教育活動が終了します。

今年度の1年間、本校の教育活動はどうであったのか、全教職員(35名)でその評価(いわゆる自己評価)をしました。詳細はホームページ等で御覧いただくとして、ここでは「財産・宝としてしっかりと引き継ぐこと」と「自己・相互研鑽をして改善充実を急ぐこと」に絞って記します。御覧になり何か感ずることがありましたら、遠慮なく連絡(電話等)いただければ幸いです。

★★★ 「財産・宝としてしっかりと引き継ぐこと」 ★★★

- ① 校舎内外の環境を整備し、環境美化に努める習慣を育成する
- ② 人間的な触れ合いを基盤とした生徒理解に努める
- ③ 家庭や地域、関係機関等と連携を密にし、信頼される学校づくりの推進を図る
- ④ 家庭及び地域との連携を深め、指導の充実に努める
- ⑤ 基礎学力の充実、教科・科目における基礎・基本の定着を徹底させ、個々に適した学習の仕方を修得させる

★★★ 「自己・相互研鑽をして改善充実を急ぐこと」 ★★★

- ① (学習) 指導要領に即した弾力的なカリキュラムの編成に努め、3年間の教育課程をより実効あるものにする
- ② 授業改善のため、組織的・継続的な研修体制の確立に努め
- ③ 創造する力を伸ばし、進んで学ぼうとする態度を育てる

以上をまとめると、本校(の教職員及び教育活動)は、「生徒理解」に努め、「個に適した学習の仕方」を習得させ、同時に「環境美化」に努め、併せて「家庭等との連携」を深めながら指導の充実に図り、全体として「信頼される学校づくり」の推進に努めていることが分かります。

一方、生徒の自己実現や進路実現を一層高めるために「3年間の教育課程(学校の教育計画の全て:教科科目の授業、総合的な学習の時間、特別活動《ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事》など)」の改善充実が求められます。また、生徒の「進んで学ぼうとする態度(学習意欲)」も一層育まねばなりません。そのためには、教師自身が自己変革・成長しなければなりません。「研修体制の確立」はもとより、まず教師自身が初心に戻り「学習指導要領」等々を貪欲に学ばなければなりません。

いずれにしても、生徒の踏ん張り・がんばりが光った平成26年度でした。これもひとえに保護者、地域・市民の皆様の本校教育活動に対する御理解・御支援の賜と深く感謝する次第です。次年度につきましても宜しくお願い申し上げ、筆を置きます。

第30回 卒業証書授与式～156名が緑丘を旅立つ～

3月1日（日）、本校体育館にて卒業式が挙行されました。156名一人ひとりに吉田校長から卒業証書が手渡されると、卒業生たちは心晴れやかな表情で、3年間の思い出を胸に新しい人生への決意をあらたにしていました。答辞では、卒業生を代表して生徒会長を務めた今隼人君から、両親や先生方への感謝の言葉が述べられるとともに、「授業や行事・部活動をとおして、努力することの大切さを学びました」と緑丘での高校生活をふりかえっていました。さいごに、全校生徒で学校祭「合唱コンクール」課題曲『ふるさと』が合唱され、会場が感動に包まれました。我が子の成長に涙する保護者の方もたくさんおり、心温まる卒業式となりました。卒業生の活躍を祈ります。



1年理科で「出前授業」!



3月13日（金）5～6校時、元噴火湾文化研究所職員の羽馬千恵先生をお招きし、地域の「外来種」問題について講義をしていただきました。1年「生物基礎」の授業の一環として行われ、生徒たちは標本や写真等に高い興味・関心を示すとともに、グループワークでは、環境保全に向けどう行動すべきか、考えていました。

2年生〈マナー講座〉実施



3月16日（月）5～6校時、2学年「総合学習」の一環として「マナー講座」を実施しました。講師として、日本工学院北海道専門学校から芝亜砂美先生にお越しいただき、社会人に求められる身だしなみや礼法、言葉遣いなど多方面にわたりノウハウを教えてくださいました。面接練習などに役立てましょう。